

第7章

「次代につなぐ新たな丸森づくり」の先に目指すもの ……50

復旧・復興期間後を見据えた中長期的な取組

第7章

復旧・復興期間後を見据えた中長期的な取組

「次代につなぐ新たな丸森づくり」の先に目指すもの

町政史上に例のない大災害から立ち上がり、次代につなぐ新たな丸森を創造するためには、これらの復旧・復興への取組に加え、高齢化や人口減少への対応など本町が取り組んできた重要課題について継続的に検討を行う必要があります。

災害の発生によって、高齢化や人口減少の加速が懸念される中、将来にわたり安心して生活できる町のあり方を描いた上で、財政負担の低減や公共サービスの質の維持を図るための新たな取組が求められます。

こうした復旧・復興期間後を見据えたまちづくりの考え方が、地域間の相互連携による持続可能なまちづくり「丸森型サステナブル・タウン（仮称）」です。これは、本町がこれまで進めてきた協働のまちづくりを土台に据え、地域の暮らしや営みを大切に、歴史や文化を次代につなぐとともに、町民の生活の質（QOL）（※）に配慮したまちづくりを行うというものです。

具体的には、丸森及び館矢間地区に医療、福祉、教育など、他地区にて維持が困難になると思われる各種サービスを補完・提供できる体制を構築する一方で、各地区内、各地区間及び隣接する他自治体に所在する交通拠点への移動の確保などといった取組の検討を進め、持続可能なまちづくりを目指してまいります。

※ 「生活の質（QOL／クオリティ・オブ・ライフ）」

「人生の質」、「生活の質」などと訳されることが多く、生きる上での満足度をあらわす指標のひとつ。

